



# 種皮と子葉が緑色で早熟な大豆新品種「青丸くん」

水田利用部 大豆育種研究室 0187 - 75 - 1084

## 研究のねらい

東北地域には種皮や子葉が緑色の青豆を用いた大豆製品に根強い需要があるが、現在作付けされている青豆品種は枝豆用のため、極晩生で倒伏も著しく安定生産が困難である。そのため、より早生で機械化栽培が容易な青豆品種を育成する。

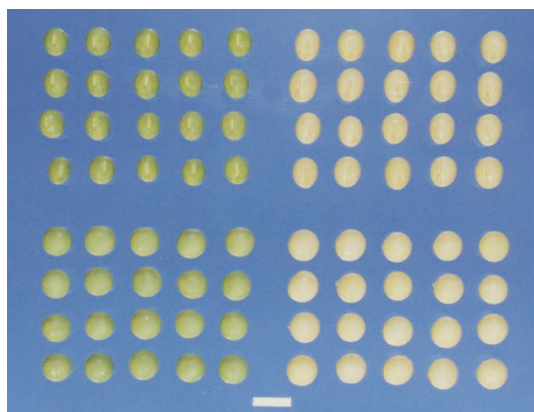
## 研究の成果

子実の種皮は淡緑、子葉および臍色は緑色であり、粒の大きさは「スズカリ」よりやや小さい“中”に属する(図2)。粗タンパク質含有率および粗脂肪含有率は「スズカリ」と同程度である。豆腐加工適性は物性や官能評価が良好であり、緑色が濃い豆腐が製造できる(図3)。成熟期は「スズカリ」よりもやや早い“中の早”に属し、早熟で安定多収である。倒伏抵抗性が強く、裂莢もしにくいので、機械化栽培が容易である。ダイズモザイクウイルスのC、D系統に抵抗性である。



青丸くん スズカリ

図1 「青丸くん」の草姿



青丸くん スズカリ

図2 「青丸くん」の子実



青丸くん

普通大豆

図3 「青丸くん」の試作木綿豆腐

## 成果の利活用

2002年に岩手県の奨励品種に採用された。

栽培適地は東北中部地域である。

ダイズモザイクウイルスのA、B系統に抵抗性を持たないので、これら系統が発生する地域では、種子更新により無病種子を使用するとともに、アブラムシ防除に努める。